

## 平成27年度 第1回 鹿沼市環境審議会 会議録

|    |           |           |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |
|----|-----------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 委員 | 鈴木<br>(節) | 鈴木<br>(章) | 荒<br>川 | 石<br>川 | 板<br>橋 | 落<br>合 | 山<br>市 | 館<br>野 | 大<br>島 | 小<br>川 | 松<br>山 | 室<br>賀 | 小<br>池 | 蓬<br>田 | 那<br>珂 |
| 出欠 | ○         | ○         | ○      | 欠      | ○      | 欠      | ○      | ○      | ○      | ○      | ○      | 代      | ○      | ○      | 代      |

事務局 石塚環境部長、石川環境課長、鈴木放射能対策室長、田中清掃課長、青木下水道課長、中村下水道施設課長、中村総務係長、金子環境保全係長、柏熊主査、後藤主査、金子主査、笹川主事

1 開 会 (14:00)

2 会長あいさつ

3 議 題

(1) 報告事項

ア 第3次環境基本計画重点施策の数値目標の達成状況について

\*事務局(石川環境課長)説明

**小川委員** 番号23 不法投棄の防止について。不法投棄箇所数9箇所の地域はどこか？

**事務局** 菊沢地区2箇所、板荷地区1箇所、西大芦地区1箇所、加蘇地区1箇所、北犬飼地区3箇所、南押原地区1箇所の合計9箇所である。車などの大規模で撤去困難なもの、洞窟や林道の斜面等の危険箇所があり撤去が困難なものが、何年間も不法投棄されたものである。対策については環境パトロール班の巡視により不法投棄の早期撤去に努めており、回収できるものについては速やかに回収しているところである。

**小川委員** 高速道路のトンネルの中に雑誌等があり、行政にお願いしたところ、速やかに対応してもらい地元も大変喜んでいた。わかっている目立たないところに投棄をする人がいるので、そういう人にも理解してもらえよう指導していかなければいけないと思った。

**事務局** 今後も環境パトロールを強化して、きれいなまちづくりに努めていきたいと思う。

**小池委員** 番号7 緑の少年団活動支援について。緑の少年団（補助交付支援団体）の平成26年度実績が前年比で激減している理由は何か。また、補助金支援の有無と関係なく、全ての団体数の推移は？

**事務局** 平成26年度から、とちぎ元気な森づくり県民税による県民税事業として補助金を交付することになった。それまでは市の補助金により、草花の栽培や花壇の手入れ等に補助金を交付していた。市の補助金を廃止し、県民税事業に移行すると補助対象が森林学習に関する事業にのみ限定され、花壇の手入れ等が補助対象とならなくなった。このため、申請する学校が前年度より大きく減少した。

緑の少年団は、市内各小中学校にあるので団体数は37団体である。平成24年度から37団体で変化なし。

（他に質疑等なし）

**報告事項アについては了解とする**

**イ 鹿沼市地球温暖化対策地域推進計画の平成26年度実績について**

\*事務局（石川環境課長）説明

**小池委員** 平成25年度比で増加しているとする廃棄物の焼却に伴う温室効果ガス排出量の各年次の数値はいくらか。また、その増減率と31番の燃やすごみ総排出量の増減との相関関係は高いか？

**事務局** 廃棄物の焼却に伴う温室効果ガス排出量の各年次の数値は、CO2換算で平成24年度は9,218トン、平成25年度は8,409トン、平成26年度が9,737トンである。温室効果ガス排出量の増減率は平成24年度から25年度にかけては8.8パーセントの減、25年度から26年度にかけては13.6パーセントの増であった。

燃やすごみの総排出量は、ガス排出量が減少した平成24年度から25年度にかけて2.1パーセントの減、ガス排出量が増加した平成25年度から26年度にかけては1.4パーセントの増であり、ガス排出量の増減にあわせた動きとなっている。廃棄物の焼却量のうち、とくに廃プラスチック焼却量の増減がガス排出量の増減に大きく影響しており、ごみの分別を徹底することにより、燃やすごみ総排出量を減らすことが、温室効果ガス排出量を減らすことにつながるという意味においては相関関係が高いと思われる。

小池委員 市全域の温室効果ガス総排出量のうち、産業部門、家庭部門及びその他部門（例えば運輸部門など）が占める割合の経年変化は？

事務局 産業部門が占める割合は、平成24年度は33.3パーセント、平成25年度は34.0パーセント、平成26年度は34.1パーセントと推移している。

家庭部門が占める割合は、平成24年度は16.3パーセント、平成25年度は15.9パーセント、平成26年度は15.9パーセントと推移している。

運輸部門が占める割合は、平成24年度は29.8パーセント、平成25年度は29.9パーセント、平成26年度は29.9パーセントと推移している。各部門とも横ばいの傾向にある。

(他に質疑等なし)

報告事項イについては了解とする

ウ 第4次鹿沼市環境基本計画の策定及び基礎調査の実施について

\*事務局（石川環境課長）説明

(質疑等なし)

報告事項ウについては了解とする

エ 環境クリーンセンター基幹的設備改良工事の進捗状況及び工事に伴うごみ減量化、ごみ処理委託の経過報告について

\*事務局（田中清掃課長）説明

(質疑等なし)

報告事項エについては了解とする

オ 地域再生計画（第2次鹿沼市「水のふるさと」再生計画）の事後評価について

\*事務局（青木下水道課長）説明

(質疑等なし)

報告事項オについては了解とする

カ 創エネルギー・廃棄物処理事業の取り組みについて

\*事務局（中村下水道施設課長）説明

小川委員 月島機械グループとの共同事業の経過について聞きたい。

事務局 一昨年、消化ガスの活用について市の実施計画に計上したのと並行して月島側から廃棄物を合わせた事業化の提案があった。PFI の優先期間が昨年の3月までだったので、それに間に合うように検討をすすめた結果、可能性を見出し実施に踏み切った。

小川委員 売電は一日何キロワットか？施設の稼働は順調か？

事務局 具体的データが出ていない。施設の稼働は順調である。施設での発電は250キロワットであるが、施設内で消費する電力を差し引くので、実際に売電できるのはもう少し減ると思われる。

小川委員 今までは消化ガスはどうしていたのか？

事務局 下水処理で発生した消化ガスについては、消化槽の加温用の燃料として半分を使用し、残り半分は利用しないで焼却処分していた。

小池委員 投入しているバイオマス液の種類と量は？

事務局 今のところ、バイオマス液は投入していない。今後検討する。現時点では、浄化槽汚泥の一部を試験的に投入している。

小池委員 発電時間約12時間とあるが毎日12時間運転なのか、または12時間以上の連続運転の断続的運行なのか？また、24時間運転できないことは予めわかっていたのか。或いは、今後投入量を増やすこと等により24時間化できる施設規模を有しているのか？

事務局 発電設備については、現在の消化ガスの発生量では12時間しか運転できない。発電設備自体はガスが発生すれば24時間運転可能である。現在の下水処理施設で消化ガスを発生させるので、その施設の能力が上限となる。このため、現時点では24時間稼働できるかできないかの回答はひかえさせていただきたい。

(他に質疑等なし)

報告事項カについて了解とする

4 その他

[事務局より]

- ・ 節電コンテストについて
- ・ 環境学習講座について
- ・ 12月5日開催の環境講演会（講師 気象予報士 平井信行氏）について

(その他意見)

**鈴木(章)委員** 不法投棄の箇所数自体は減っているが、投棄された箇所においては掘れば掘るほどごみがでてくるという状況である。環境パトロールも一生懸命やっているが、投棄されたものを撤去するとなると、環境課単独では無理だと思う。それを補うためには、環境課だけではなく、県の協力や景観審議会等と横のつながりを持って、いくつかの組織が不法投棄について話し合っていくことが必要であると感じている。

(会長あいさつ)

**鈴木会長** 2年間ご苦勞様でした。みなさんには委員として貴重なご意見をたくさんいただきました。それらがもとになって、素晴らしい環境基本計画ができていくのだろうと思っています。継続して委員となる方は、よろしくお願いします。2年間という長い期間ありがとうございました。ご協力により審議会がスムーズに進行できたことに改めてお礼申し上げて、あいさつといたします。長い間ご苦勞様でした。

5 閉会（午後3時5分）